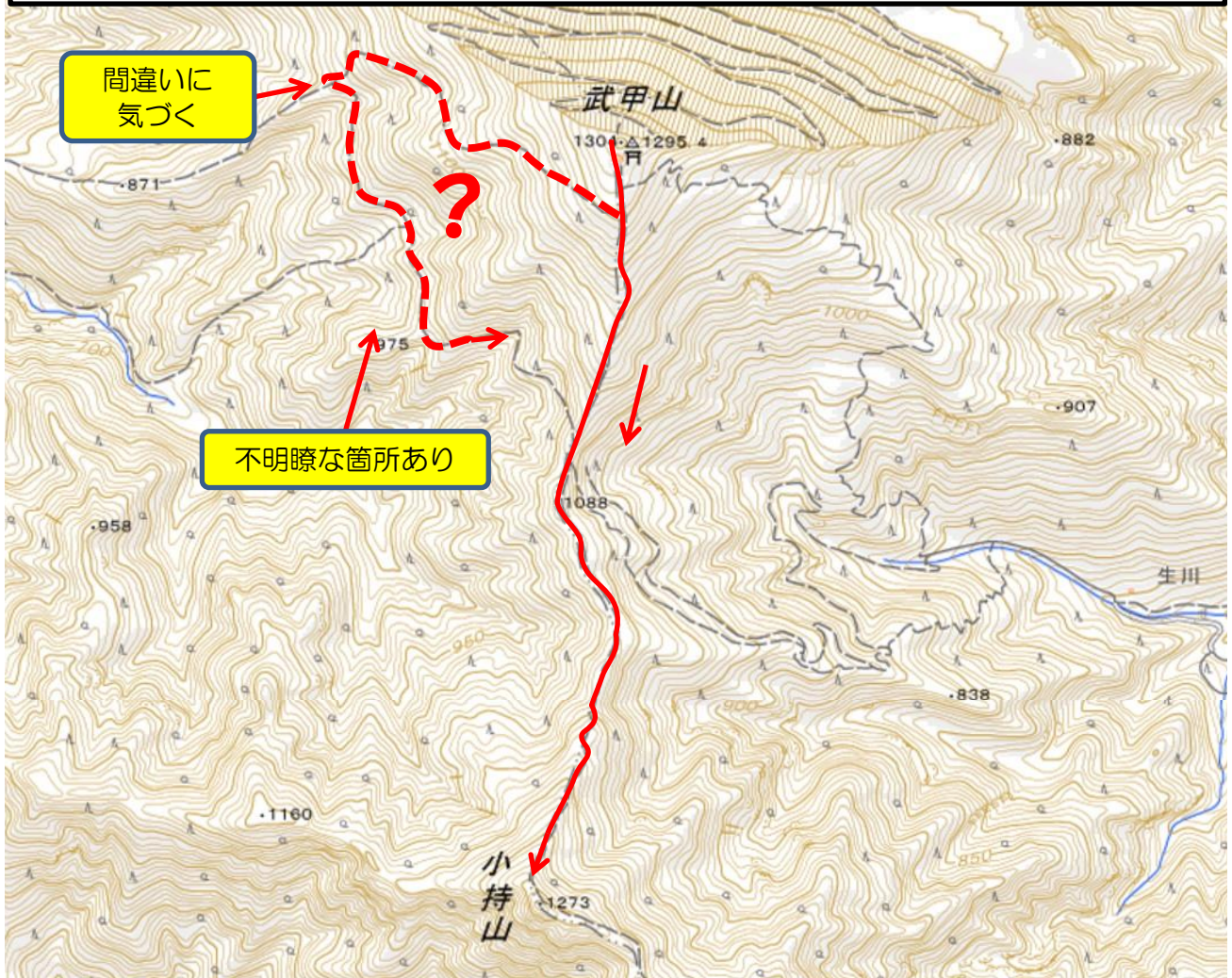


武甲山道迷い(2013年11月)

2人で登山。なぜか尾根を直進せず、西側のルートへ道迷い。途中で気づき地図を見ながらルートを復帰した。



解説

武甲山を後に小持山へむかう・・・が、何を考えていたか(何も考えていなかったが)3本ある道の右側を降りてしまった。紅葉の美しさに見とれ、写真を撮りながら、長者の屋敷の頭(シラジクボ方面への分岐)にきて初めて道を間違えていたことに気づく。

さて、そこからが大変。分岐からシラジクボへ向かうが、あまり人が通らないようで、道は崩れているし、トレースが見えなくなってどこを進めば良いのか困ってしまった。幸い、2万5000分の1の地図とコンパスを持っていたのでそれを確認しながら進む。いやあ、地図読みは大切です。もしなかったら、あるいは地図が読めなかったらそれこそ「道迷い遭難」だったかも・・・(HP参照)

武甲山から小持山へのルートは南方向に一直線の尾根を進むだけなのだが、道迷いは発生してしまう。本人が言われているように「何も考えずに進んでしまった」パターンである。周りの景色に気をとられ、何も考えていない行動が一番やってはいけない行動である。

登山で道に迷わない方法。それは、「**地図の先読みをすること**」に尽きるだろう。道に迷って不安になり、『**根拠なく進む**』行動は、遭難への近道と思ってほしい。今回の事例は読図ができる方だったので大事には至らなかった。ピークからの下りは道迷いが多いので注意してほしい。